HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	職場・業務紹介 附属植物園
Author(s)	川端, 清見
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 1, 57-57
Issue Date	1994-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35271
Type	departmental bulletin paper
File Information	1_p57.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

川端　清見（エンレイソウ実験園・北方民族植物標本園・草本分科園・トリカブト園担当）

◆職場紹介

昭和３６年に農学部附属植物園に採用となり、庭園部門として冷温帯・亜寒帯に生育する野性植物、とくに希少植物・絶滅危惧種の栽培、展示保存、管理をし、実験・実習植物の育成と系統保存を行っています。私の担当は北方民族植物標本園、エンレイソウ実験園、草本分科園です。

◆仕事内容

北方民族植物標本園には、アイヌ（カラフト・千島・北海道各地）、ウイルタ（オロッコ）、ニブヒ（ギリヤーク）などの北方民族が利用した植物７３科２００種を分類順に植栽し、民族植物学の教育、研究に役立つように展示しています。それぞれの種類が自生地でどのような条件で生育しているのかを調べ、標本園で最も良い条件で植栽展示できるように努めています。また、それらの開花日、結実期の調査も行なっています。

エンレイソウ実験園では、細胞遺伝学・生態学の研究材料として現在日本産、北アメリカ産をあわせ１２種４０００株の栽培管理をし系統保存を行なっています。これらは実験・実習用として使われますので、エンレイソウを植えるベット（1m×4mを毎年８～１０個）の枠と用土の整備をし、播種床を作り、種子を採種して栽培しております。

草本分科園は北海道の低地から山地に見られる自生・帰化、日当りの良い林縁・草原・道端・空き地などによく見られる草本植物３６科１５７種を系統順に、属をアルファベット順に配植し、さらにトリカブト属２０種のコレクションを展示栽培管理しています。

これらの栽培には野性種を採集し、その植物の生育条件に合わせて例えば水を好む植物には火山礫とピートモスの多い土壌のボックスを地中に入れて栽培したり、あるいは１・２年草の植物は毎年種子を採取し播種して苗を作るなどして栽培管理をし、あわせて種子交換事業にも協力しています。これらの植物も開発が進み１０年ほど前には原野、道端などに野性植物がよく見られましたが、年々道路の拡張や宅地化が進み、環境の変化によって絶滅が危惧されるようになってきており、本園内で植栽管理をし系統を保存することが重要な役割となってきています。

１９８６年より植物園年報に開花期・結実期・黄紅期に関する報告を載せています。

◆施設、設備、面積等

北方民族植物標本園　１７００㎡　　エンレイソウ実験園　１２７０㎡

草本分科園　２４００㎡

◆悩みや困っていること

植物園は大学としての教育研究のほかに一般公開をしていることから、そのための維持管理業務もあり、両立させてゆく苦労があります。

◆今後の方向または希望

北方系植物の系統を保存し、教育研究の施設としてより充実した植物学の研究の場となるよう協力していきたいと思います。